

当社も推進する「ほめ育」の実践が、園運営と人材育成の質向上に活用されています

幼児活動研究会株式会社では、「できない子はいない。すべての子はできる」という理念のもと、幼児教育の現場における教育の質の向上と人材育成を支援しています。その取り組みの一つとして、こどもたちの自己肯定感や主体性を育む教育メソッド「ほめ育」の普及を推進しています。

近年、少子化の進行や保育・教育人材の確保が重要な経営課題となる中、園運営においては、教育の質の向上と働きやすい職場環境づくりの両立が求められています。当社が支援する「ほめ育」は、こどもの成長支援だけでなく、職員同士が認め合い、支え合う組織文化の醸成にも活用されています。

大分県の当社契約園では、ほめ育の実践を通じて、職員一人ひとりの「人の役に立ちたい」「人を喜ばせたい」という意識が高まるとともに、保護者からもこどもたちの挨拶や感謝の姿勢について高い評価が寄せられているとの報告をいただいています。また、こどもたちの自己肯定感や挑戦意欲の向上も実感されているとのことです。

さらに、大阪府の当社契約園では、ほめ育の実践を通じて、こども一人ひとりの特性や可能性をプラスの視点で捉える文化が定着し、職員がこどもたちの「良き理解者」として成長を支える保育の実践につながっているとの報告をいただいています。職員の自己肯定感の向上や保護者との良好な関係構築にもつながっており、こどもたちには自ら考え行動し、仲間を応援し合う姿が見られるようになるなど、主体性や協調性の育成にもつながっていると紹介されています。

一方、東京都の当社契約園では、職員同士が感謝や承認を言葉で伝える取り組みが定着し、園全体のコミュニケーションや職場環境の改善につながっています。また、こどもたちの結果だけでなく、その過程や努力に目を向ける保育実践が進み、自ら挑戦しようとする姿勢や自信を持って行動する姿が見られるようになったと紹介されています。（当社発行「セミナーニュース 令和8年9月号」より）

当社が考える「ほめ育」は、単にほめることを目的とするものではありません。一人ひとりの良さや可能性を認め、自ら考え、挑戦し、成長する力を育むことを目指し

ています。この考え方は、こどもたちだけではなく、保育者や教育者の成長、さらには組織全体の活性化にもつながるものと考えています。

当社では、体育指導、教育研修、園運営支援を通じて全国の契約園をサポートしており、今後も教育現場の課題解決に資するサービスの提供を通じて、中長期的な企業価値向上に取り組んでまいります。